

平成23年度事務事業評価シート(平成22年度分)

予算科目	会計	一般会計	001	款	10	項	05	目	03
事務事業名	ふれあい通学合宿事業								
担当部署	生涯学習部生涯学習課太田公民館	2801400	電話	0187-88-1119			内線	244	

◆事務事業の位置づけ

総合計画の体系	施策の柱	02:未来を創り心豊かな人を育むまちづくり
	施策の大綱	01:学校教育の充実
	施策	01:学校教育の充実
	施策の内容	03:児童生徒の課外活動や校外活動の充実
根拠法令等		

◆計画Plan

事業の目的 (何のためにこの事業を行うのか)	異年齢の子どもが、親元から離れて共同生活を体験することで、他者への思いやりや協調性、連帯性、自主性を伸ばし、心豊かでたくましく「生きる力」を育むことができるよう支援する。
事業の対象 (事業の対象となる人、物など)	太田地域内小学校4・5・6年生
事業の内容 (具体的にどのような活動をするのか)	2泊3日間、学校に通いながら合宿を行う事業。子どもの自主性や思いやりの心、コミュニケーション能力などの育成を図る。参加費:2,000円(食事代)。合宿期間のプログラムは定めず、子どもたちの自主性を尊重する。合宿所では友達と遊んだり、宿題をしたり、洗濯したりと自由に生活・活動する。夕食後は、ボランティアの読み聞かせや体育指導委員による「NEWSスポーツ」の時間など、一部、子ども同士や大人とのコミュニケーションの手助けも実施。
事業の成果 (どのような成果を期待するのか)	小学生の時期に異年齢グループで学校へ通いながら集団生活を行い、人とのふれあいの大切さを体験させることを目的に実施。

◆実施Do

項目	名称	単位	平成20年度	平成21年度	平成22年度
活動結果 (事業の活動量を測る)	① 実施回数(2泊3日)	回	3	3	3
	②				
	③				
成果 (事業の成果を測る)	① 参加児童数	人	106	106	88
	② 参加率(参加者/対象者)	%	59	62	53
	③				
投入コスト	決算額		616千円	655千円	554千円
		一般財源	616千円	655千円	554千円
	人件費		1,427千円	1,409千円	1,426千円
		一般職員の年間従事人数	0.2人	0.2人	0.2人
		一般職員以外の年間従事人数			
	総コスト	(決算額+人件費)	2,043千円	2,064千円	1,980千円

事業を取り巻く環境	今後はますます少子化が進むため、いっそう異年齢・小集団での集団生活を体験させることが重要になってくる。
-----------	---

◆評価Check

評価項目		評価	
必要性	①【市民ニーズ】 事業を取り巻く環境の変化等により、事業に対するニーズが薄れていませんか	A 薄れていない B 薄れている	A
	②【市が実施する必要性】 市が実施主体となってこの事業を行うことは妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	③【計画上の位置づけ】 施策を達成するための手段として妥当ですか	A 妥当である B 妥当でない	A
	評価の理由	地域の異なる学校の児童の交流であるため、教育委員会が主となって事業を継続していく必要がある。	
有効性	①【成果】 活動結果に対し事業の成果は順調に上がっていますか	A 上がっている B 上がっていない	A
	②【活動内容見直しの余地】 事業の成果をさらに向上させるため、事業内容に見直しの余地がありますか	A 余地はない B 余地はある	B
	評価の理由	合宿期間中は、高学年の児童が年少者に施設の使い方を教える姿が見られる。家庭に戻ってからも、お手伝いを良くするようになったとの保護者からの感想もあり、成果が出ている。 事業開始から年数がたっており、学校行事との兼ね合いなど開催時期、スケジュール内容の検討を進めている。	
効率性	①【民間の活用】 指定管理者制度を含む民間委託等により、コスト削減できませんか	A できない B できる C 指定管理導入中	A
	②【他事業との統合・連携】 他の類似事業との整理統合や、関連事業との連携は可能ですか	A できない B 可能である	A
	③【人件費の圧縮】 適正な人員配置(従事職員数、臨時雇用等)により、人件費を削減できますか	A 削減できない B 削減できる	A
	④【コストの縮減】 上記以外の方法で、事業の成果を維持しながらコストの削減、またはコストを増加させずに事業の成果を上げることはできませんか	A できない B できる	A
	評価の理由	限られた予算で低料金で実施しているので効率的である。 PTA会員などを中心とした実行委員会を組織できれば委託することも可能であるが、児童数の減少、家庭の方針、経費なども関係するので民間委託等は難しい。	

◆改善Action

総合評価 (今後の方向性)	改善策	評価の理由 今後の改善策等(いつ、何を、どのように)
A 現状のまま継続 B 改善しながら継続		
C 拡大 D 縮小 E 廃止 F 終了		少子化により地域の小学生が減少しており、異年齢での集団生活は必要である。今後は開催時期、スケジュール内容の検討を行いながら事業を継続する。